

ハレ=ヴィッテンベルク大学学長一行が本学を表敬訪問

5月14日、2011年より本学との学術交流協定を締結しているハレ=ヴィッテンベルク大学(ドイツ)のクリスティアン・ティーティエ学長、ヘニング・ローゼナウ法学部長、マンヤ・フスナー インターナショナル・オフィス長が来訪した。当日は、犬井正学長の歓迎挨拶に続き、ティーティエ学長よりハレ=ヴィッテンベルク大学に関するプレゼンテーションが行われた。別会場で行われた歓迎レセプションで、一行は、犬井正学長、山路朝彦副学長、山本淳国際交流センター所長らと懇談した。その後のキャンパスツアーで、ティーティエ学長らは獨協歴史ギャラリー等、キャンパス内の施設に立ち寄った。

ハレ=ヴィッテンベルク大学は、ザクセン=アンハルト州に位置し、500年以上の歴史がある総合大学。協定締結後は交換留学だけでなく、夏季短期研修先としても本学との交流を深めている。ハレ=ヴィッテンベルク大学への留学に関するお問い合わせは国際交流センター(天野貞祐記念館2階)まで。



高校教員対象入試説明会を開催

6月5日に、高校教員を対象とした「獨協大学入試説明会」を開催した。事前申し込みは231名(225校)あり、当日は、首都圏だけでなく、北海道、東北、北信越、東海地方などの218校から223名が参加し、過去最多となった。

大講堂を会場とした第I部では、駿台教育研究所の石原賢一氏による「2020年度入試対策と2021年度新制度入試のポイント」と題した講演と、入試課長による「2019年度獨協大学入試結果と2020年度以降の入試」の説明があった。第II部では、会場をA-306教室に移し、学科別個別相談会を実施した。第I部同様、多くの高校教員が参加し、相談ブースに訪れた。入試に関する相談は入試課まで(TEL 048-946-1900)。



第46回創造祭開催

5月29日から6月1日まで、『Brand New 文花』をテーマに第46回創造祭が開催された。創造祭は、文化系のクラブ・サークルが中心となり、展示発表、講演会、演奏会などを行う本学の大学祭である。

開会式では、学友会長を務める犬井正学長より挨拶があり、書道研究会が書道パフォーマンスを行ったほか、アカペラサークルOLFMが合唱を披露した。今年は広告研究会が、アナウンサーとして活躍している本学卒業生の蛸原哲さん(日本テレビ・97年卒)、井上綾夏さん(NST新潟総合テレビ・17年卒)による対談企画を開催し、盛況だった。

実行委員長の高根澤真鈴さん(総2年)は「改めて文化系団体が人を感動させる力を持っていると感じた。この魅力をより多くの方に伝えるために、どのように広報するかが今後の課題。良い点は伸ばし、反省点は改善し、次回はより良い創造祭にしたい」と感想を語った。

次号10月号では学生記者による創造祭特集記事を予定している。



外国語学部主催 シェイクスピア劇『真夏の夜の夢』上演

5月29日、天野貞祐記念館大講堂で、インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドンによるシェイクスピア劇『真夏の夜の夢』が上演された。

『真夏の夜の夢』は、アテネ近郊の森を舞台とした喜劇で、人間界の男女の結婚に関する複雑な問題と、妖精界の王と女王の養子を巡る争いを妖精のパックが円満な結末に導くという話。

劇中では、6人の役者達が複雑な人間関係をユーモアあふれる表現で演じ、観客を魅了するとともに多くの笑いを誘っていた。来場者の中には高校生や小さな子どもの姿もあり、劇を楽しんでいる様子であった。

同日のPre-Performance Lecture(事前講義)では、外国語学部英語学科の前沢浩子教授による劇のセリフや登場人物の解説が行われ、参加者は理解を深めていた。

(学生記者/小林優麻)

